

## 「名月と大潮」(協同組合通信/風雪弾)

14.09.19

人には、心密かに描いている、または思い出に残る月があるだろう。

月の形・時刻・月齢、清澄な夜空と雲が綾なすコントラスト、地形や鑑賞した場所、風が醸し出す音響効果など、蘊蓄を傾けたら止まらない好事家も多い。

中でも、迫りつつある秋の夜気に輝きを増す9月(旧暦の長月、望月)の満月、仲秋の名月の頃が、筆頭ではないかと思われる。

この月は、古来日本人の美的センスをくすぐるのか、生活の中で息づき、文学や短歌、俳句に数多の秀作が残されている。

太陽、月、地球の引力が作用して起こる自然現象に、潮名がある。旧暦各月の初日の新月から数えて、大潮、中潮、小潮、長潮、若潮と呼ばれ、農家や漁師に重宝されている。

満月の頃は、太陽と地球と月がほぼ一直線に並び、3つの天体の各々の引力が引き起こす、大潮の時期に当たる。

海岸や港に潮が、最も満ち、引く時でもある。

月も潮も、満ちる時である事が、人間の体内に存在するDNAを刺激しているのではないかと想う。原始の海から、陸に上がり生物学的進化を遂げてきた人類に、遙か遠い記憶の彼方から呼びかけているものは何だろう。

人の体重の65%程が水分で、人体の成分元素は、種類と組成割合が海水と酷似しているという。不思議な気持ちになるが、妙に納得し、安心するデータの1つである。

今年の仲秋の名月は、9月21日で、この日の過去10年の気象データと潮汐を調べてみた。

厳密には、満月と満・干潮の時刻は、不定であり一致する事はあり得ないが、鑑賞するのに、最適な時刻を仮に21時としてみた。

平均気温は、札幌が15.2で既に秋が深まりつつあり、東京が21.7、金沢、京都、広島、松江、松山、福岡までの各地とも20~23、那覇が26.2で夏の名残がある。満干潮時刻は、金沢の20時55分から、那覇では翌日の01時24分とばらばらに訪れる。晴れの日数は、札幌と那覇が6日、金沢と東京が4日、その他は2日以下で、意外と名月を鑑賞できる確率は小さいようだ。

名月を見るチャンスは、涼しい札幌か、暑さもある那覇とでた。

この夜を、月を語る家族の団欒、会話の一時にできれば、素晴らしい。

( 気象情報システム株式会社 高津 敏 )